

◎ 美術館情報

【各施設では、下記の特別展・企画展等のほか、常設展を開催しております。】

1. 瀬戸染付工芸館 (<http://www.seto-cul.jp/sometsuke/kikaku/index.html>)

1月5日(土)～3月25日(月)

企画展：「絵付の表現 ー瀬戸染付の技ー」

呉須という酸化コバルトを含む顔料を用いた絵付は、瀬戸ではまず陶器に施され、やがて磁器土の改良や呉須をより青く発色させる研究により、呉須の青色や素地の白さを活かした、さまざまな絵付の方法が生まれていきます。今回は、青一色ながらも、さまざまな表現が用いられた作品を紹介します。

2. 美濃焼ミュージアム (http://www.tajimi-bunka.or.jp/minoyaki_museum/archives/4703)

1月19日(土)～5月26日(日)

企画展：「戦国桃山の茶入」

茶入とは、抹茶を入れる陶器製の壺で、中国からもたらされた唐物茶入と国内で生産された和物茶入があり、和物茶入は圧倒的に瀬戸・美濃窯で生産された瀬戸茶入で占められています。

本展では、生産地の観点から考古学的な調査結果を基にして大窯期に入る戦国期から桃山期につくられた茶入の編年的変遷過程を紹介します。



3. ヴァンジ彫刻庭園美術館【静岡・長泉町】 (<https://www.clematis-no-oka.co.jp/vangi-museum/exhibitions/1105/>)

1月12日(土)～4月9日(火)

企画展：「黒田泰蔵 白磁」

本展では、轆轤(ろくろ)に初めて触れてから約半世紀の後に辿り着いた白磁の現在を、円筒や梅瓶、花入、台皿といった数々の優品により展覧します。磁土との対話の中、個を極限まで消していくことで純化された白磁がみせる抽象の世界。轆轤の回転が生み出す柔らかで張りのあるフォルム、釉薬を用いず、焼締め後に磨かれた表面の艶やかな陰影、宙空へと薄く挽き上げられた口縁など、その美しさの特質には枚挙にいとまがありません。1981年の帰国後より伊豆に窯を構え、以来40年近く静岡の地でうつわの可能性を追求し続けてきた黒田泰蔵の究極の白磁を、ぜひご堪能ください。



4. 東京国立近代美術館工芸館【東京・千代田】 (<http://www.momat.go.jp/cg/exhibition/thebizen2019/>)

2月22日(金)～5月6日(月)

企画展：「The 備前 ー土と炎から生まれる造形美ー」

備前焼は、釉薬を施さず土と炎の造形から生まれるシンプルで原始的なやきものとして、古くから日本人に愛されてきました。「窯変」「緋轆(ひだすき)」「牡丹餅」「胡麻」「棧切(さんぎり)」など、薪窯による焼成で生まれた景色は他のやきものにはないみどころです。本展では桃山時代に茶人・数寄者によって見立てられた古備前の名品から、その古備前に魅せられ作陶に取り組んできた近代の作家、さらに先達から受け継いだ技術を生かして現代の備前を確立しようとする若手の作品まで、重要無形文化財保持者の作品も交えて、幅広く紹介します。シンプルでありながら、多彩な表現を生む備前の魅力を探ります。

5. BANKO アーカイブデザインミュージアム (<http://banko-a-d-museum.com>)

1月10日(木)～4月14日(日)

第5回企画展: 「yellow -黄色いものいろいろ-」展

BANKO アーカイブデザインミュージアムでは、萬古焼の常設展のほかに、年2回程、様々なデザインに焦点を当て、「形・FORM」「色・COLOR」「素材・MATERIAL」「人物・PERSON」など、毎回ひとつのテーマに沿った企画展が開催されています。開館3周年記念展となる「yellow -黄色いものいろいろ-」展では、開館当初からのイメージカラーである「黄色=yellow」に焦点を当て、約100点の黄色い作品が集められました。紀元前の発掘品からブリキのおもちゃまで、時代や生産国、素材や用途の異なる、明るく楽しい“黄色いものいろいろ”をぜひお楽しみください。

